

編集後記

◇ペンテコステの翌週、6月11日の日曜日は、熊野伝道所の皆さんと礼拝を共に守ることが出来ました。1年前からの約束を果たすことが出来、それだけでも私には十分嬉しかったのですが、今回は更なる喜びが此れに加わり、二重の喜びを味わうことが出来ました。と言うのは、名嘉先生のご配慮で、世界遺産となった熊野の景勝地を、幾つか訪ねることが出来たからです。中でも圧巻は、熊野川の支流北山川をウォータージェットで遡り、舟から眺めた瀨峡でした。昔、明治の文人大町桂月は、北海道の山の緑を見て、「マヨネーズをかけて食べてみたい」、と歌ったそうですが、私も熊野の山の緑を見て、同じ思いを持ちました。但し、北海道の山がレタスだとすれば、熊野のそれはブロッコリーと言わねばなりません。しかし、水の濃い青と山の濃い緑と、その上に広がる何処までも澄んだ空の色が、実によく調和して、見る者を陶然とさせてくれるのです。上掲の写真は、ご同行くださった名嘉先生が、その時撮られたものです。私は、少年時代から青年前期まで、凡そ10年間三重県に住んだのですが、戦争直後のことで、町も自然も荒れ果て、三重には殆んど良い印象を持たずに育ちました。しかし、熊野を知って、その思いは一変しました。今では、「熊野を知らずに、三重を知っているなどと、見栄を張るな」、と言いたい気持ちで一杯です。

◇さて、“ミニバラ” No.13 をお届けします。今回は、4月16日のイースターに入会された松佐京子姉と、5月3日阪口暁洋兄と結婚された阪口光加姉にご寄稿頂きました。音楽礼拝のことは、引越しでご多忙の中、編集と共に山本まゆ子姉にお書き頂きました。心より感謝致します。(三輪恭嗣)